

寸 脇

THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

第7号 1992.6

目 次

図書館・調べもの・古本屋歩き（合田昭二）	1
情報の流通と整理（武井 昭）	3
教官推薦図書 全体的医学のすすめ（井奈波良一）	5
数学と論理（萬代武史）	5
今秋オンライン目録（OPAC）が変わります	6
附属図書館統計	8
教官寄贈図書	8
図書館関係委員会委員など	9
図書館員から一言 上口 正昭	10
丹羽恵利子	10
土曜開館のご案内など	10

図書館・調べもの・古本屋歩き

合 田 昭 二

これまで多くの図書館でお世話になってきたが、私の利用の仕方はかなり片寄っている。図書館が折角用意している多面的な機能のうちの一部しか使っていないのである。例えば、図書館の最も古典的なイメージに合いそうな利用、つまり大部な名著を毎日通って継続的に読むという利用の仕方は身につかなかった。他方、図書館の新しい機能の利用にも消極的で、VTRもLL機器もCD-ROMも図書館のものは使ったことがない。

学生時代は図書館はまず「勉強部屋」だった。気持ちよく過ごせる下宿にめぐり会えていたのだが、友人に恵まれたせいもあってか、講義があつてもなくとも登校する習慣が身についた。居場所はいろいろあったが、図書館の開架室もその一つだった。定期試験の準備の時も本を借りる必要がないのに図書館に行った。友人の誰かに会うこと多く、一緒に昼食に行き、また談話室で雑談した。冬などお互いの灯油代を節約しているんだなと

笑い合った。19世紀の大英図書館にマルクスはじめ貧乏な思想家・作家が毎日通っていたのは、蔵書の内容とともに、完備された椅子・机・暖房・照明・湯の出る洗面所なども魅力だったはずだと何かの文章で読んだことがある。

卒業研究に直結した大きな著書が何冊も開架室にあったことによって、図書館に通う習慣はいっそう定着した。開架室を歩き回るうちにつぎつぎ参考文献を見つけたり、カードを繰って本を借り出すことも増えた。したがってこのころには図書館は「調べもの」の場となった。もっとも大学院受験のための語学の勉強などもやったから、以前からの利用法も継続していたわけである。

一方、専攻以外で読みたい本はたいてい自分で買って読んだ。あるとき生協の書店で本を買おうとしていた友人に、この本なら持っているから貸すよと申し出たところ、買って持つことも目的だとの返事が返ってきた。自分と同じ考え方だなと

印象深く覚えている。買える本となるとたいてい文庫か新書で、学部から大学院にかけて読んだ小説は、長編でもほとんどが文庫版だった。値段の点ともう一つは電車の中を読む場所にしていたからである。ある時は小説、ある時は新書と電車の中ではたいてい何かを読んでいた。「レ・ミゼラブル」のように途中で延々と退屈な話が挿入される作品は、車中の断続的読書だったから最後までたどりつけたのかもしれない。図書館閲覧室の落ち着いた雰囲気の中で古典文学をじっくり楽しむという習慣はいっこうにつかなかつた。

大学院での専門の勉強に関しては、大学の図書館以外のウェートが増えた。野外調査が必要になったためであるが、さらにいろんな図書館などへ本を調べにゆくことも加わっていた。過去の実態を調べたり、官庁などが行った調査の結果を活用する必要があったからである。このため調査地の図書館で郷土資料などと分類されている文献を漁ることになるが、目的は事実関係の把握・データ獲得にあるので、本を読むと言うより本の中から必要な部分を探し出すというスタイルとなつて、「調べもの」という利用姿勢がいっそう徹底してくる。官庁へ行って統計や官庁報告書を閲覧する場合は、閲覧室で本をめくっていても本を読むという感じからはさらに遠い。

大学に職を得ると、読書はもとより調べものも自分の部屋でやるのがもっと容易になった。図書館へゆく回数は多いが、目的は借り出すためか禁帶出のレファレンスブック類の検索といったことにさらに限定されるようになり、閲覧室に腰を落ちつけることは一層少なくなった。ところが本学の統合後しばらくして、新しい利用の場が加わった。それは「集密書庫」である。ここは統合以前の所蔵体系がそのままになっているため、どこに何があるかわかりにくい。その中を歩くのは古本屋をめぐるのと似ている。

学生時代から今日まで古本屋歩きは好きである。といっても論文に直結するまとまった資料の発掘はわれわれの専攻分野では余り期待できない。収穫が期待できるのは、隣接分野の古典的な著書とか、研究テーマに関連した雑知識が得られる本とか、関心のある地域についての郷土資料的な本、

あるいはまったく趣味的な本である。安くなければならぬことは当然であり、貴重書・稀観本には初めから縁がない。しかし、ときには妙な本にぶつかることがある。著者の献辞入りの本が流れ流れて何度か手に入った。最近では岐阜市の古本屋でダークダックスのメンバーの一人が書いた「日本の抒情歌」なるまだ新刊後まもない本（新品同様なのにずいぶん安くなっていた）を買ったところ、見返しのページに達筆な毛筆で、「繋架」とあって贈り先の氏名とゲタさんの署名が見られた。また高いはずの本がうんと安く買えることもたまにある。2年ほど前、神田で「十六銀行百年史」（やはり新品同様）を500円で買った。岐阜の古本屋では1万円くらいで売っている。

集密書庫は古い本ばかりであることがまず古本屋と似ているが、さらにこうした何かにぶつかる楽しみの点でも共通している。目録で探した本を取りに行ったついでにあちこち書棚をながめるといろんな発見がある。現在相当高い古書価格を持つ「岐阜県手漉紙沿革史」が3冊別々の書架に置かれている（もっとあるかも知れない。カードにない本がときどきあるから）。会社の社史もあちこちにいろいろある。社史はカード目録ではいくつかの項目に分散しているので、書棚ではじめて所在を知ることも多い（図体が大きいので目立つ）。専門学校時代の養蚕や製糸や織物の古い教科書をたまたま開いて、現在野外調査で調べている事柄についての説明を見つけたこともある（昔の技術書は素人にもわかりやすい）。本に関して偶然の収穫があるのは、カードより本の現物を目の前にしている場合に多いようだ。

あるエッセーの中で、情報網が発達したせいか最近は古本屋で掘り出し物にめぐり会うチャンスがなくなった。「近代化」は生活を味気なくすることらしい、と述べられているのを読んだ（大内力『冬ごもり』東大出版会）。偶然の発見のウェートが大きい書庫というのは「近代化」「情報化への対応」が遅れているわけで、不便さと表裏の関係にある。しかし見方を変えれば、そういう書庫は現代では味わいにくくなつた楽しみを有している場所であるともいえよう。

（ごうだ しょうじ：教育学部教授）

情報の流通と整理

武井 昭

「表題だけが今風ですが中身は陳腐であることをお詫びしておきます。」表題からここまで実は人の借り物です。何を書いたらいいか思い悩んでいるとき、昔馴染みの農林水産省のある試験研究機関の長が書いていたのが目にふれて、これは丁度いいものがあったと思って借用した次第です。

私どものように、コンピューターとか情報処理などとかいう問題に疎い人間にとって、情報とはもっと広い概念で、これがなければ、仕事はもとより、生活すらおぼつかなくなるものを指しているんだとは思いながら、情報という言葉を使うことに何となく後ろめたい気がするものです。そこで、ついこんな前書きが出てしまうようです。

さて、情報ということについて、ちょっと前まで私のいた農林水産省での私の経験をお話しすることにしましょう。

昭和56年、農林水産省は鴻巣にあった農事試験場のつくば移転を契機として、これを改組し、農業研究センターを作りました。

この改組の趣旨について触れると、学問分野の専門分化が進んだ結果、農林水産省の試験研究も、どちらかというと学会向けの研究になっているという批判もあり、もっと産業省の試験研究機関としては現場のニーズに応えるものでなければならないという声が当時非常に大きくなっていました。これに応える形で、土地利用型農業の総合研究のメッカとして、作られたのが農業研究センターだったのです。総合研究とは、分化の進んだ研究の成果を統合して現場につなげる研究と言えてもいいと思います。

農業センターの設立によって、研究機関の運営も、いかに生産現場の研究に対するニーズを的確に把握するか、研究成果をいかに生産現場に還元するかに重点がおかれたことも当然といえば当然のことでした。しかしことは理屈通りには進まない

いものです。この期待した情報の流れは思わぬ事態に当面せざるをえなかったのです。

その1. 会議の仕組みについて。

農林水産省の試験研究機関は各都道府県の試験研究機関と密接な連携を持ちながら試験研究をすすめてきました。各地域にある国の農業試験場の研究者は2月に中央に集まって研究計画や成果情報を交換し、3月にはそれぞれの地域内の県の試験研究機関の研究者を集めて同様の会議をもって、研究の相互連絡を行っていました。しかし生産現場から試験研究に対するニーズを吸い上げるという立場をとれば、これは逆で、まず、地域内の県の研究者との会議があり、その情報を持ち寄って国の研究者の間の会議をもつことが必要となり、この時以来、2月と3月の会議の設営は逆転したのでした。結果は大変不評でした。県としては会議の席上、国のもっている情報を持ちかえること、言い換えれば中央情勢を知ることに、この会議の意義を与えていたからです。再三にわたる県からの要望に対して国側は趣旨説明を繰り返し、説得を続けました。

直接本題とは関係はないのですが、北陸地域の場合など、年々の豪雪のために会議を2月に行うことについては足の面からの制約があり、事実、ある年などは、会議のいくつかをやり繰りしなければならないという事態も発生したのでした。このことも、本題と直接関係ないとは言いながら、地域の研究担当者にとっては案外重要な問題なのです。

それから10年。聞くところによると、会議の設営の仕方は元に戻ったそうです。このことは結局私たちにこういうことを教えてくれたようです。

「情報の需給構造が変わらないのに情報の流れだけを変えようとしても、所詮それは無理な話というものだ。」

その2. 情報を周知させなければ。その建前と

本音。

研究を総合化するためには、広く情報を伝達する必要がでてきます。たとえば果樹地帯での水田転作で大豆を作る問題で、現場にすぐ使えるものということになると、果樹の技術問題も、水稻の技術問題も、大豆の技術問題も、総合化するための経営問題も必要ということになってきます。従来は果樹の研究者は果樹に関する情報を、水稻の研究者は水稻の情報を相互に交換していたのですが、研究者はともかくとして、研究の課題設定や成果の伝達について重要な責任をもつ研究管理者はそうした狭い範囲に止まつてはいけない。広く他部門の情報を取り入れて総合研究をやらせるようにすべきだということで、各試験研究機関の成果物は相互の管理者の間で漏れのないように交換されることになりました。机の上は整理しても整理しても連日送られてくる資料が山積みされ、しまいには整理する元気もなくなってしまうのが悲しい現実でした。

この結果は、各試験研究機関とも、出す方としては従来より極端に部数の増えた資料の印刷費の捻出に苦労し、一方受け取る立場からは、よそから送られてくる膨大な資料に目を通す時間がなく、目を通すことが絶対に必要な資料についても、山の中に埋もれてしまって、つい見落してしまうという欠陥を生み出したのでした。

その3. 限定された情報。

こうした情報の氾濫に対してその処理が検討されていたことはいう迄もありません。組織としても、研究情報官を新たに設け、情報のインプットとアウトプットについての窓口としました。さらに、現在では、具体的な情報管理には企画連絡室に情報課が作られています。従来から図書資料の管理には、各試験研究機関には資料室があったわけですが、情報処理技術の進歩とともに、その機能の強化が必要となったわけです。また研究上の問題としては情報処理方法を研究する研究室ができて、如何に情報問題に力が入れられているかがわかります。しかしこのことで果たして十分といえるのでしょうか。

いい研究を行うためには、研究管理が適切でなければならないのは当然です。そしてその研究管

理には、広い情報が必要です。そのなかで、上にのべてきた試験研究に対する生産現場のニーズや研究成果も重要な情報です。しかしそれ以外の情報、たとえば研究者の資質とか、適正配置とか、生活問題とか、健康問題とか、研究を担っている研究者にかかる情報、また、予算の配分とか、機械施設の利用とかの研究環境にかかる情報等、実際に多くの情報が必要とされます。こうした情報はフォーマルな形では流れません。いろいろの機会を通じて管理者がつかんでいかなければならぬ問題です。

またこうした会議の仕組みの変更のなかで、国の研究者同志、国の研究者と県の研究者の間で行われる会議は影を潜め、より重要と考えられる研究管理者間の会議のみがクローズアップされることになりました。研究者が研究遂行にあたって必要な情報も、必ずしもペーパーによるものだけではなく、研究者同志の会合のなかでインフォーマルに交わされるものが案外重要な意味を持つことが多いと思います。

研究の効率と、研究成果の社会的評価を追い求めるに急で、管理者の会議のみを重視しすぎたことは反省されなければならない点だと思います。

ここで私の言いたいのは、情報といって重視してきたのがいわばインフォーメーションであって、インテリジェンスとしての情報が欠落してしまったのではないかということなのです。それを別の側面からとらえれば、情報を必要としている社会構造を変えずに情報の操作だけが先行してしまった歪みが問われているということになるのでしょうか。そしてこの是正には、まだこれからさき長い年月がかかるのかも知れません。

(たけい あきら：農学部教授)

- ILL(図書館間相互貸借)システムについて
平成4年4月から学外への文献複写、図書借用の申込が従来の郵送による方法に、新たに学術情報センターのILLシステムを利用して電子的に処理する方法が加わり、文献入手の時間が短縮されました。

教官推薦図書

教官から、その専門分野を専攻しようとする学生に先ず薦めたい入門書・基本図書、あるいは、より多くの教官・学生に教養書として是非一読を薦めたい専門図書を紹介していただいている。

全体的医学のすすめ

井奈波 良一

わが国は21世紀のはじめには国民の5人に1人が65歳以上になるという超高齢化社会を迎える。この結果、今後、いっそう国民医療費の増大や疾病構造の多様化がすすむと思われる。このような医療の構造的な問題を解決するためには、疾患の治療よりむしろ病気の予防（一次予防）に重点をおかねばならないことは明白である。

この医療の危機を乗り越えるためには人体を単なる物理的肉体と見る古い西洋医学の見地から、人体とは相互作用するダイナミックな知性とエネルギーのながれであり自然界の表現そのものであるという全体医学的見地への移行が必要である。これはアーユルヴェーダの古代の文献に述べられている認識である。サンスクリット語で「生命の科学」を意味するアーユルヴェーダは、古代イン

ドから伝承された最古の医学体系であり、世界保健機構（WHO）によって正式に承認されている。

このアーユルヴェーダについて「クオンタム・ヘルス」Deepak Chopra著、原田稔久訳、春秋社、1991年、を推薦したい。著者は西洋医学の分野で豊富な経験を積み、ボストン大学の社会医学系臨床助教授を務めた後、アーユルヴェーダの大本に師事し、アーユルヴェーダの真髓を究めた。本書には、古代の賢者（リシ）たちによって集大成され受け継がれてきた人体と自然に関する英知のエッセンスが盛り込まれている。また、著者は心と体の健康を確立する鍵を解きあかし、最近注目されている精神神経免疫学を始めとする現代科学の目を通して力強い説得力をもって語りかけている。（いなば りょういち：医学部助教授）

数学と論理

萬代武史

数学においては、“正しいと証明されていること”と“極めて正しそうだがまだ完全には証明されていないこと”との境目は非常にはっきりしている。それは、正しいことの証明が極めて厳密な論理によってなされるからである。数学で使われる論理は、その厳密性において、日常生活はもちろん他の科学でも余り見られないものであろう。しかしこの厳密な論理も、日常生活で使われている論理が純化されたものである。したがって、日常的な論理と数学における厳密な論理との間の部分について考えることは、結構面白い。このあたりのことに関連した好著が、野崎昭弘「詭弁論理学」・「逆説論理学」（中公新書 448, 593）の2冊である。詭弁・強弁・パラドックスといったことをからめて、論理について面白く書かれている。

すべての人にぜひ一読をお勧めしたい。

さて、論理や証明そのものについて研究する分野を“数学基礎論”と呼ぶが、この分野での今世紀最大の成果は、なんといってもゲーデルの定理であろう。Raymond Smullyan “Forever Undecided — A Puzzle Guide to Godel”(Oxford Paperbacks)（長尾確・田中朋之訳「決定不能の論理パズル」、白楊社）は、論理パズルを楽しみながら記号論理学の基礎を身につけ、さらにはゲーデルの定理や様相論理にまで迫ろうという（とんでもない？）本である。論理に興味のある人・コンピュータサイエンスに興味のある人などには、面白いのではないだろうか。原著は平易な英語なので、そちらにチャレンジしてみるのもよいだろう。（まんだい たけし：教養部助教授）

今秋オンライン目録（OPAC）が変わります

このたび、新しい図書館情報システムが導入されることになり、現在、利用者のみなさんに岐阜大学所蔵図書目録の検索をご利用いただいておりますOPAC(Online Public Access Catalog)が今秋頃に新システムに切り替わりますので、その概要についてお知らせします。

1. 図書館以外の場所からの OPAC の起動

今までと同様に情報処理センターのホストコンピュータの TSS 端末として接続できる機能があれば、研究室のパソコン等からでも利用できますが、現在使われている TOSHO コマンドが OPAC コマンドに変わります。次のように起動してください。

- 1) OPAC を利用する端末がホストコンピュータと接続されていることを確認し、次の TSS コマンドを入力します。

LOGON TSS USERID/PASSWORD

(注)USERID 及び PASSWORD は情報処理センターへ申請して取得して下さい。

- 2) READY 状態になっていることを確認して OPAC コマンドを入力します。

READY
OPAC

- 3) 初期設定の画面が表示されますので、OPAC を利用する端末の端末属性と APS で定義されたプリンタ ID (プリンタが接続されていない場合は入力する必要はありません) を入力します。図 1 の OPAC メニュー画面が表示されます。

2. 新 OPAC の特徴

①雑誌目録の検索もできます。

雑誌目録の検索も OPAC ができるようになります、約35万冊の図書と全雑誌の目録・所在情

報の検索ができます。

②メニュー検索で操作が簡単にできます。

検索コマンドを知らないなくても、検索を行えますので、初心者でも簡単に操作できます。また、操作に困った時は、どの画面からでも説明キー (PF 1) を押せば、その画面の操作説明が参照でき、現在の状況を確認したり、次にどういう操作をしたらよいか知ることができますなど、ヘルプ機能が充実しています。

③貸出システムや受入システムと連動しています。

OPAC から貸出状況や受入状況を知ることができますなど、所在指示機能の範囲が大幅に拡大しています。例えば、借りたい図書が貸出中か否かとか、利用したい新着雑誌が製本中か否かなどということがわかります。

④検索語の入力はアルファベット・カタカナ・漢字・ひらがなでできます。

図 2 の検索語入力画面から、検索したい項目に検索語を入力します。アルファベット・カタカナ等の半角モード (1 バイト形) だけでなく漢字・平仮名等の全角モード (2 バイト形) でも入力できますので、検索したいものによって使い分けができます。

⑤検索項目が多様になります。

タイトル中のキーワードや著者キーワードのほかに件名・出版事項等からも検索でき、利用者が検索に利用できる手がかりは増大しています。

⑥論理積・論理和検索が便利になります。

1) 探したい資料についての手がかりをそれぞれの検索項目に入力し、実行キー又は OR キー (PF 5) を押します。実行キーを押した場合は、項目間の論理積検索を行い、OR キーを押した場合は、項目間の論理和検索を行います。

2) 同一項目内での論理積検索を行う場合は、検索語と検索語の間に 1 行以上の空白あるいはカンマを入れます。

例 1 : タイトル : AMERICAN JOURNAL

例2：タイトル：AMERICAN JOURNAL

3) 同一項目内の論理和検索を行う場合

は、検索語と検索語の間に“□+□”
 (“□”は1桁の空白を表す)を入れます。

例：タイトル：AMERICAN + JOURNAL

⑦トランケーション（一致条件）が使えます。

(表I)

トランケーション記号（“@”：文字数不定，“？”：文字数指定）を利用した検索ができます。なお、条件指定できる検索項目は、タイトル、著者名、件名、出版者、出版地、キーワード、会議情報です。

以上、簡単に新OPACの紹介をしました。利用者のみなさんに資料検索のツールとして、今まで以上にご活用いただければ幸いです。

種類	入力形式(例)	
完全一致	LIBRARY	
前方一致	LIBRARY @	LIBR???
後方一致	@ RARY	???RARY
両端一致	LIB @ RY	LI???RY
任意一致	@ BRA @	?BRA??

表I トランケーションの種類

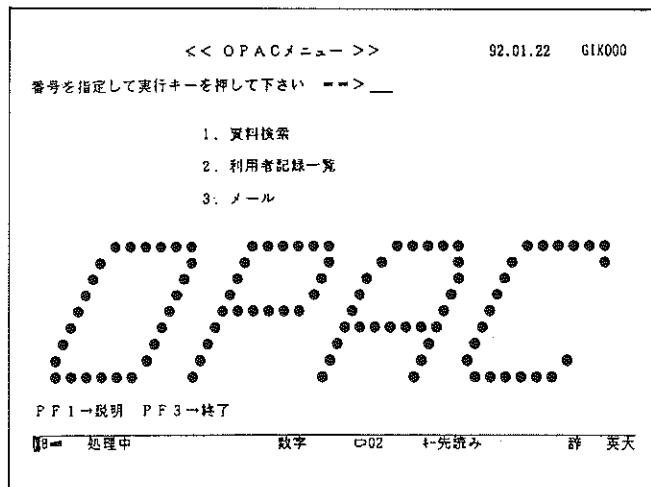


図1 OPACメニュー画面

<< 検索語入力 >>		92.01.22 G1K100
検索語または検索式を入力して、実行キーを押して下さい。ヒット件数： 18 件		
タイトル：	物理学	
著者名：		
キーワード：		
件名：		
出版者：		
出版地：	ISBN/ISSN： _____ ~ _____	
会議情報：		
分類番号：	テクニカルレポート番号： _____	
請求記号：	資料ID： _____	
その他	番号： _____	
図書／雑誌： (1:図書のみ, 2:雑誌のみ) 和／洋： (1:和のみ, 2:洋のみ)		
地区コード： _____		
ファイル指定： _____		
PF1→説明 PF2→クリア PF3→終了 PF5→OR PF9→索引語 PF10→略語 PF11→詳細 PF15→購入依頼 [PF]→処理中 □02 +先読み 語 英大		

図2 検索語入力画面

附 屬 図 書 館 統 計

平成4年3月31日現在

蔵 書 冊 数

	本 館	分 館	計
和 書	432,506冊	61,728冊	494,234冊
洋 書	177,480	62,152	239,632
計	609,986	123,880	733,866

館 外 貸 出 冊 数

	本 館	分 館	計
教 職 員	1,711冊	3,130冊	4,841冊
学 生	40,815	2,741	43,556
学 外 者	457	—	457
計	42,983	5,871	48,854

年間図書受入冊数・年間雑誌受入種類数

	本 館	分 館	計
図 書	和 12,670冊	1,339冊	14,009冊
	洋 4,570	1,891	6,461
	計 17,240	3,230	20,470
雑 誌	和 2,151種	541種	2,692種
	洋 1,345	732	2,077
	計 3,496	1,273	4,769

図書館間相互協力・情報検索

	本 館	分 館	計
相互 貸借	貸出 8冊	0冊	8冊
	借用 127	8	135
文献 複写	受付 1,910件	2,976件	4,886件
	依頼 5,290	1,421	6,711
オンライン・CD-ROM 情 報 検 索	157件	1,022件	1,179件

教官寄贈図書（平成3年度）

ここには学内の教官が著作・編集・刊行等に関係した図書で、図書館に寄贈された分を掲載しています。御寄贈ありがとうございます。引き続き御寄贈をお願いいたします。

野澤 義則（医学部）

図説医化学 香川靖雄、野澤義則編 2版 南山堂 1990

野崎 正勝（医学部）

オピオイド 鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会編 化学同人 1991

濱嶋 信之（医学部）

多変量解析による臨床研究 浜島信之 名古屋大学出版会 1990

医療の疫学 Noel S. Weiss 浜島信之 佐々木隆一郎訳 名古屋大学出版会 1987

小出 浩之（医学部）

ラカン読解入門 Joel Dor 小出浩之訳 岩波書店 1989

ラカンと臨床問題 小出浩之編 弘文堂 1990

分裂症と構造 正・続 小出浩之 金剛出版 1990-1991

医学部分館所蔵分

フロイトの技法論 上・下 Jacques Lacan ほか編 小出浩之ほか訳 岩波書店 1991

大友 弘士（医学部）

エッセンシャル寄生虫病学 多田功ほか 第2版 医歯薬出版 1991

植木 啓文（医学部）

精神医学 Rainer Tolle 飯田眞ほか監訳 西村書店 1991

佐々木俊也（医学部）

生化学辞典 大島泰郎ほか編 2版 化学同人 1990

土井 健誉（医学部）

すぐに役立つ画像診断の基本 6 石井靖ほか編 医薬ジャーナル社 1991

松本 興治（医学部）

胸部大動脈瘤のすべて 松本興治 へるす出版 1991

平成4年度 附属図書館関係委員会委員

(平成4年6月)

	附属図書館 委員会委員	資料選定 委員会委員	館報編集 委員会委員	図書・紀要編集 委員会委員 (医学部分館)
館長	大岡伸正	大岡宿正	大岡剛	大岡吉忠
医学部長	大岡伸正	大岡宿正	大岡剛	大岡吉忠
教育学部	高見剛	高見剛	高見剛	高見剛
医学部	小鹿丈夫	小鹿丈夫	小鹿丈夫	小鹿丈夫
工学部	佐々木榮英	佐々木榮英	佐々木榮英	佐々木榮英
農学部	津田雅夫	津田雅夫	津田雅夫	津田雅夫
医学部	山崎拓	山崎拓	山崎拓	山崎拓
教養部	溝口敏一	溝口敏一	溝口敏一	溝口敏一
医療技術短期大学部	中島かず子	中島かず子	中島かず子	中島かず子
工業短期大学部	林賀啓子	林賀啓子	林賀啓子	林賀啓子
	溝中村	溝中村	溝中村	溝中村
	口齋上	口齋上	口齋上	口齋上
	敏博廣	敏博廣	敏博廣	敏博廣
	二三喜	二三喜	二三喜	二三喜
	敏博廣	敏博廣	敏博廣	敏博廣

人事移動 平成4年1月～4月

() 内は旧

4.1 河田 幸男	教育学部事務長(事務長)	4.1 中齋二三博	整理第一係長(整理第二係長)
溝口 敏博	事務長(附属農場事務長)	小林かず子	整理第二係長(整理第一係長)
傍嶋 敏雄	主計課管財係主任 (総務係主任)	羽賀 啓子	閲覧係長(参考調査係長)
太田 忠	総務係主任 (医学部管理課用度第一係主任)	村上 喜廣	参考調査係長(閲覧係長)
		川合 紗実	医学部分館 採用 事務補佐員
		稻垣 晴美	退職

お知らせ

- 図書館利用証について
入館管理システムの導入により、新しい図書館利用証を持っていないと入館できません。
まだ、新しい利用証を受け取っていない人は、受付で手続きしてください。

- 平成5年度購入雑誌の調査について
平成5年度に購入する国内雑誌及び外国雑誌の調査を9月始めに行います。創刊誌の見本、カタログ等が図書館にありますので、選定の参考にしてください。

誌名「寸胴」とは……

当附属図書館のロビー正面に「寸胴譜」と名付けられた大きな陶壁がある。この寸胴とは陶器を作るときロクロの上で最初にできるツボのようなものをいう。花瓶、茶碗、皿など、いずれにしてもその親型となるのが、姿はよくないがこの寸胴

であり、作者以外の目に止まることはないが、陶器の原点である。換言すれば、この寸胴の果たす役目こそが、学生、研究者にとっての大学図書館の果たす使命であると位置付けることができよう。誌名の「寸胴」はこれに因る。

図書館員から一言

上口正昭

本年度より、図書館専用電算システムが稼働しています。私の係では、図書の書誌データを中心にデータの作成及びメンテナンスを主に行ってています。前システムで作成し新システムにコンバートした約35万件の図書データのメンテナンスや集密図書のデータ作成等今後の課題がありますが努力していきたいと思います。尚、岐大OPAC及び学情センターのDBアクセスが数年前から研究室のパソコンから接続可能になっています。詳細は、岐大情報処理センター広報(5, 8, 10号)に掲載されていますので、ご覧の上利用して下さい。

(かみぐちまさあき)

丹羽恵利子

閲覧係の窓口に立って、早3年目。埃の飛び散る書棚を横目に本の整理と追われています。そんな中にも、集密書庫の本は、セピア色に染まり長い歴史を感じ身が引き締まる思いです。片や積層4階の洋書コーナーでは、背表紙の褪せた何とも言えない色合いを眺めるだけで異国の香りが漂よいうっとり空想の世界です。一度手に取ってと思うのですが、やはり私には遠い国のように見えます。皆さんも一度異国の香りを味わってみませんか！

(にわえりこ)

土曜開館のご案内

国の行政機関は5月から土曜日は休みとなりましたが附属図書館では、土曜日も次のように開館していますので、ご利用ください。

- ・開館時間 午前9時～午後0時
- ・業務内容 閲覧のみ（貸出・返却はできません）但し、校費による複写はできます。

なお、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日、並びに3月の土曜日で次の日は閉館します。

- 7月18日, 7月25日, 8月1日, 8月8日,
8月15日, 8月22日, 12月26日, 1月9日,
3月6日, 3月13日, 3月27日

休館日のご案内

次のように臨時の休館日を予定しています。

- ・毎月第二火曜日
- ・夏季休業中の図書整理期間
附属図書館 8月3日(月)～8月10日(月)
医学部分館 8月12日(水)～8月14日(金)
＊閲覧のみ可能
- ・12月28日(月)～1月5日(火)

平成5年1月初旬まで

次のように夜間開館停止を予定しています。

- ・附属図書館 7月17日(金)～8月24日(月)
12月25日(金)～1月8日(金)
- ・医学部分館 8月10日(月)～8月14日(金)
12月25日(金)～1月8日(金)

＊図書館内の案内・掲示に注意してください。

岐阜大学附属図書館報「寸胴」第7号 1992年6月30日

編集 委員長：大谷 熨 委員：堀田剛吉, 安岡 忠, 宇野尚雄, 溝口敏博,
中齋二三博, 村上喜廣

発行 岐阜大学附属図書館

〒501-11 岐阜市柳戸1番1 ☎0582-30-1111